

議 事 録 （ 概 要 ）

件 名	第4回米子駅周辺活性化連携会議		
日 時	令和5年7月10日（月） 午後2時30分～午後3時50分	場 所	米子市福祉保健総合センター（ふれあいの里）4階 中会議室1・2
出席者	別紙 出席者名簿のとおり		

（協 議 概 要）

【部会報告等】

- (1) 駅周辺整備検討部会について（米子市から報告：資料1）
- (2) 駅周辺活性化検討部会について（米子市から報告：資料1）
 - ・質疑、意見なし。

【議事】

- (1) がいなロード、米子駅新駅舎完成記念イベントについて

①完成記念イベントについて（米子市から報告：資料2）

・イベント一覧表のとおり、非常に多くのイベントがある。駅前の店舗には、職員が記念ポスターの掲示をお願いに周ったので、各店舗の商売繁盛に繋げていただきたい。連携会議で西部総合事務所の前所長から、民間事業者と広く連携するような流れにするべきだという意見があり、情報交換会とキックオフ会議を開催し、多くの関係者にお集りいただいた。開通の1週間前には「歩いて楽しいまちづくりシンポジウム」、秋にはワークショップを予定している。市民の皆さんを巻き込んでまちづくりを考える、そんなきっかけになる米子駅の開業にしたい。（市：伊澤副市長）

➡キックオフ会議と情報交換会について、ぜひ今後もこのにぎわいづくりの流れを継続していければと思っている。官主導だけではない、みんなで意見を出し合い多くの方が関わる米子らしいにぎわいづくりができれば良いと思っている。（県：中原西部総合事務所長）

➡様々なイベントをしっかりとやらせていただく。シンポジウムやワークショップは市民の皆さんの機運の醸成等を考えていただくという意味で良い取組だと思っている。（商工会議所：森田専務理事）

➡連携会議については、テーマごとに必要があれば柔軟に集まって相談でき、まちづくりの起点を作っていくような役割を果たしていきたい。今回キックオフ会議と情報交換会を開催してみて、目的が同じ仲間が一緒になってまちのにぎわいを作っていこうと結束して情報共有等ができた。意欲あふれる事業者が数多くいることが、米子のまちの素敵などころである。

（市：伊澤副市長）

②だんだん広場・各種イベントの助成について（米子市から報告：資料3）

・だんだん広場については、本年4月1日から鳥取県から本市への管理移管を受けた。だんだん広場を有効活用することは大変重要だと考えているため、今回可能な限りの規制緩和を実施している。必要な規制緩和については継続的する方向で考えたい。イベント補助金については、まずは関係事業者を活用していただき、それが日常的に行われるようになることが最終的なゴールのイメージである。もし予算以上の申請があれば、次回の議会への予算の補正の検討等も含めてやっていきたい。

➡規制緩和と補助金は活用させていただきたい。補助金対象事業については、今後協議をさせ

ていただきたい。(商工会議所：森田専務理事)

- ➡県でだんだん広場を管理すると、県内の他の広場と同じ条件で運営していかないといけないが、米子市が管理することにより、今回、柔軟に規制緩和ができた。管理移管して良かったと改めて感じている。今後もぜひ有効に活用していただきたい。(県：中原西部総合事務所長)

(2) 米子駅北広場整備について (米子市から報告：資料4)

- ・バスの待合所の問題や暫定でコンビニエンスストアがある場所等、引き続き協議や調整等が必要なところが残っている。コンビニエンスストア撤去後については、具体的にどうしたらいいか引き続き検討を進める。米子駅北広場の整備は数年間かかるため、必要な協議や調整等を重ねながら整備を進めていきたい。また、南側と北側で交通の役割分担をする課題について、マイカーでの利用は、南側の方が良くなるのではないかと、また、一部のバスについても南側を使う方が利便性が高いと思っている。とっとり花回廊のシャトルバスは8月から南側を発着とすることを予定している。その他のバスについても状況を見ながら、南側のロータリーの利用をご検討いただくことになる。(市：伊澤副市長)
- ➡駅は交通結節の場所であるが、JRから駅北広場のバスやタクシーへの接続は案内が分かりにくく感じる。この課題解決に、JRとしても協力していきたい。コンビニエンスストアの跡地は、人が流動するのにかなり利用しやすい場所であるため、人がくつろげるような場所として、椅子やテーブル等を置くことも考えられる。南側と北側の役割分担について、特に朝の時間帯は北側で車がかなり混んでいるため、南側の活用が非常に重要なポイントになる。駅の利用者にも案内していく。(JR：和田副支社長)
- ➡駅に新しい降り口ができて、駅のイメージや機能が大きく変わる。南口の有効利用については皆さんと一緒に考えて取り組んでいきたい。(市：伊澤副市長)

(3) 米子駅周辺の活性化について

①令和5年度の歩いて楽しいまちづくり関連事業について (米子市から報告：資料5)

- ・市道米子駅目久美町線道路整備事業は歩行者空間のための道路整備であり、ウォークブル事業で行う道路整備としては最初の取組である。周辺の利活用性を高めるため、あえて道路の左右で歩道の幅が違う設計にしている。また、ほこみちの指定を行うことにしており、この市道をより一層有効に使っていただける仕組みにチャレンジしていきたい。目久美公園の整備や秋のワークショップ等についても、新しいまちづくりをみんなで考えるきっかけにしたいと考えている。ハード整備は目的ではなく手段であるため、整備されたものをしっかり市民や事業者の皆さんに利用していただき、歩いて楽しいまちづくりに繋げたい。引き続き皆さんのご協力をお願いしたい。(市：伊澤副市長)
- ➡実証実験については、鳥取県としても積極的に協力をさせていただく。ただ、安全性をしっかりと確保した上で、有効な手段を見つけるために協力し合いながらやっていきたい。(県：中原西部総合事務所長)
- ➡市道米子駅目久美町線のほこみち検討は、本当に良いことだと思う。にぎわいができるためには、どうしても沿道利用が必要になってくる。沿道利用への民間事業者の誘導について、行政側も検討していただきたい。(商工会議所：森田専務理事)

②駅南の活性化について (米子市から報告：資料5)

- ・これから民間主導の開発等の期待もしたいが、駅南の多くが宅地であり、住環境との調和は必

要不可欠である。また、県と市の共同で整備をさせていただき新体育館は、米子市民体育館と米子産業体育館、米子市営武道館を1つに集約した山陰でも最大級の施設であり、本市では、ここへのアクセスとして、東山公園駅を利用させていただくことを大きな柱にしながら、天気の良い日は歩いていただきたいと考えている。人が歩くのにぎわいができ、そこに商売や経済活動が発生するというのは明らかであるため、歩行者動線も考えながら、どういった整備が可能か検討を始めているところであり、必要な部分については鳥取県とも相談していきたい。歩行者動線が南口と繋がることで、新たな人の流れを生み出し、駅南地域の活性化の大きなきっかけになると考えている。(市：伊澤副市長)

➡新体育館の整備は共同でやっていくものであるため、にぎわいづくりや動線の確保等について様々なパターンが考えられるので、部会も含めてまた一緒になって検討していきたい。いろいろな課題があると思うが、一緒にやっていきたい。(県：中原西部総合事務所長)

➡当社は米子駅の南側に3,000㎡程度の土地を有しているが、まちづくりに資するものができるように、活用について検討を重ねているところである。(JR：和田副支社長)

(4) その他

・がいなロード開通や新しい駅舎開業をきっかけとして、連携会議を開催させていただいている。最初は整備関係の調整ということが主な役割だったが、これを活かすまちづくりについての調整が中心になりつつある。これからの少子高齢化の中で公共交通の役割がますます大きくなり、米子駅の価値は、現在我々が考えている以上に大きなものになってくると考えている。また、米子駅から東山公園の新体育館等、圏域以外からも人が集まる際に、交通結節点としての米子駅の役割も非常に高くなると思っている。米子城跡や米子港周辺、角盤町や朝日町を中心とした中心市街地に波及してくるようなまちづくりを進めていきたい。その起点になる議論をこの連携会議で進めていきたい。(市：伊澤副市長)

・歩いて楽しいまちについて、米子市の市街地全体でどのように考えたらいいかということ、URと一緒に、妄想会議という会議をやっている。現在、中間報告的なものができているが、それについては商工会議所青年部が中心になって参加しているため、青年部の岡本会長から紹介をさせていただきたい。(商工会議所：森田専務理事)

➡今年度4月から米子市の各エリアでどのような整備や設備、イベント等があると歩いて楽しいまちづくりに寄与できるか自由にアイデアを出し合っている。「全国初のかわまちウォークブル」をキャッチフレーズに、米子のまちに根付いている街道文化や水運文化、鉄道文化という昔からあるいろいろな設備や資源を組み合わせる新しい移動の可能性を体験していただくことを考えている。従来の公共交通以外にグリスロやパーティーバイク、遊覧船等の新しい公共交通を根づかせることで、歩いて楽しいまちづくりに寄与できないかと考えている。まずは実証実験で市民の皆さんに体験していただき、これらが本当に歩いて楽しいまちづくりに寄与するかどうかの検証を、今年度実施したいと考えている。(商工会議所青年部)

➡基本的にまちづくりとは、まずは妄想からスタートしていると思う。米子のまちは元々そうやってできたと思うので、シンポジウムやワークショップ等も含めて、いろいろな方が意見を言い合いながら楽しくまちづくりができたかと考えている。引き続き、どんどん妄想を広げていただきたい。(市：八幡総合政策部長)

➡歩いて楽しいまちづくりとは、公共交通の維持をしながら、まちの魅力づくりをするために非常に大切なコンセプトだと思っている。人口減少問題は待ったなしであるため、公共交通の維持ということも考えながら取り組みたい。インバウンドも日本全国で復活してきており、

鳥取県西部では10月から米子ソウル便が復活し、大阪で関西万博もある。米子駅や米子空港を玄関としながら、多くの方に来て楽しんでいただくためには、歩いて楽しいまちづくりは大きな魅力になると思っている。(県：中原西部総合事務所長)

➡人の移動をどうシームレスに繋いでいくかが我々の大きな課題となっており、現在、MaaS全体の山陰結節に取り組んでいる。今後の取組としては、来春からやくもが新しくなる。2025年には大阪の関西万博がある。交流人口を拡大していくには、大きな節目となる年であるため、いろいろな企画を出していきたい。(JR：和田副支社長)

➡歩いて楽しいまちづくりに関連して、米子市は本日、3万4000人の65歳以上の市民の皆さん全員にフレイル度チェックのご案内を発送する。今回は高齢者に限った取組であるが、歩くことが非常に健康に有効だと言われている。そうは言っても10kmや20kmの距離を歩くわけにもいかないため、その間はやはり公共交通機関で移動する必要がある。和田副支社長から紹介があったとおり、新やくもについては私も大変期待している。米子駅には「やくもラウンジ」もできる。そういったものをしっかり結びつけながら、皆さんと一緒に米子のみならず山陰全体を元気にしていく視点から取組を進めていきたい。(市：伊澤副市長)